

2026 年 8 月 17 日

2006 年 1 月から 2026 年 6 月に産業医科大学病院

においてアトピー性皮膚炎と診断された患者さんへのお知らせ

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた情報の記録に基づき実施する研究です。このような研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（令和 3 年 3 月 23 日制定 令和 3 年 6 月 30 日施行）」により、対象となる患者さんのお一人おひとりから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開するとともに、参加拒否の機会を保障することとされています。この研究に関するお問い合わせ、また、ご自身の診療情報が利用されることを了解されない場合は、以下の問い合わせ先にご連絡ください。利用の拒否を申し出られても何ら不利益を被ることはありません。

1. 研究課題名

アトピー性皮膚炎における IL-13 が及ぼす皮膚線維化の影響

2. 研究期間

研究機関の長の許可日 ～ 2027 年 3 月 31 日

3. 研究機関

産業医科大学

4. 研究責任者

産業医科大学医学部皮膚科学 教授 澤田 雄宇

5. 研究の目的と意義

アトピー性皮膚炎は、かゆみや湿疹をくり返す病気ですが、長く続くと皮膚が厚く硬くなる「苔癬化（たいせんか）」という変化が起こることがあります。これは皮膚の「線維化（せんいか）」と呼ばれる現象が関係していると考えられています。ただ、そのメカニズムについては良く分かっていません。

[目的]

この研究では、この線維化に関わる物質の一つ「IL-13（インターロイキン 13）」という免疫物質に注目しています。IL-13 が皮膚の線維を作る細胞にどのような影響を与えているのか、また、他の物質（たとえば TGF- β ）との関係はどうなっているのかを詳しく調べます。さらに、IL-13 の働きを抑える治療が線維化を改善できるのか、そしてその効果は元に戻せるのかも検証します。

[意義]

この研究によって、アトピー性皮膚炎の慢性的な皮膚の変化の原因をより深く理解し、将来的には、皮膚の厚みや硬さを防いだり改善したりする新しい治療法の開発につながることを期待されます。

6. 研究の方法

試料は産業医科大学病院皮膚科にて診療目的で皮膚生検ならびに血液検査が行われたアトピー性皮膚炎の症例の患者さんのデータを集積し、解析が行われます。診断目的に採取した皮膚組織を用いた評価や IL-13 をはじめとした炎症性サイトカインの発現を測定し、皮膚の線維化との関わりを評価します。また、この研究では、通常診療の一環として取得される採血検査項目である白血球数、LDH (乳酸脱水素酵素)、好酸球数、血清 IgE および T 胸腺および活性化制御ケモカイン(Thymus and activation-regulated chemokine: TARC)や診療情報より得られた治療内容、皮膚炎の重症度として体表面積、EASI score の情報を用います。

7. 個人情報の取り扱い

個人情報の公開はいたしません。データの解析の際には対象者を特定できないように氏名、住所などの個人情報を全て加工（匿名化）します。

また、この研究で得られた試料は論文の発表後 5 年間、情報は論文の発表後 10 年間産業医科大学皮膚科学教室で保管した後、試料は医療廃棄物として廃棄し、情報は復元できないように処理した上で廃棄します。

この研究への参加の拒否は自由です。研究への参加にご同意いただけない患者さんは下記問い合わせ先にご連絡ください。研究対象から対象外とさせていただきます。

8. 問い合わせ先

産業医科大学病院 皮膚科 澤田 雄宇 TEL093-691-7445

9. その他

研究への参加に対する直接的な利益はありません。また、費用の負担や謝礼もありません。この研究は一切の利益相反はなく、産業医科大学利益相反委員会の承認を得ており、公正性を保ちます。